

## 小学生へのトレーニングの事例 ～ 通級指導教室での事例 ～

### ◇さまざまな困難のある子どもたち

通級指導教室へ通ってくる児童は、「通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とするもの」とされている。このように、子どもは普段は通常学級において、学習、活動を頑張っており、週に1時間（45分）程度、通級指導教室に通ってくる。通級指導教室では、日常生活の場である家庭、学校での適応を図るために、学習上又は生活上の困難を改善・克服するために児童のニーズに応じた指導を行うことになる。

通級指導教室に通ってくる児童は、下記のようなさまざまな困難を抱えている。

- ・手先が不器用で、粗大運動が苦手。 ・書字に困難があり、板書を写すことや、プリント学習が苦手。
- ・読字に困難があり、逐次読みや勝手読み、読み飛ばしがある。 ・学習した漢字が定着しにくい。
- ・字形を正確に捉えることができず、形がゆがんだり、細部に間違いがあったりする。
- ・集中して見たり、聞いたりすることが難しい。 ・算数の筆算で位をそろえて書くことが難しく、間違いが多い。

本通級指導教室では、通級指導に通っているすべての児童に視覚機能のチェックを行い、必要に応じたビジョントレーニングを行うようにしている。

### ◇視覚機能のチェック結果

現在、通級指導を行っている児童は、1年生～6年生の男女30名である。すべての児童に「近見視力」「眼球運動」「DEM」「VMI」のチェックを行っている。これらのチェックは、短時間で行うことができ、児童の様子を観察することもできるので、個別指導を行う通級指導ではとても適している。

#### 【チェック結果（何らかの困難が認められるのべ人数）】

近見視力	眼球運動	DEM（横読み速度）	VMI
3名	21名	17名	18名

チェックの結果では、実に半数以上の児童にビジョンに関する何らかの困難が見受けられた。個々の結果は、担任、養護教諭に伝えるとともに、面談の際などに保護者にも伝え、必要があれば眼科医への受診もお願いするようにしている。

### ◇トレーニングの実際

通級指導では、学習時間の最初の10～15分程度をビジョントレーニングの時間に充てている。視覚機能に困難が認められた児童には、下記の内容からその児童に合ったトレーニングを組み合わせる。また、視覚機能に困難がない場合でも、集中力の低下や多動、衝動性がある児童にビジョントレーニングを行うことで、集中して取り組む時間が伸びる、体のコントロールができるようになるといった効果を実感しているため、ビジョントレーニングを取り入れている。

	取組内容
体の運動	・アヒルとハト ・ラインウォーク ・トランポリンなど感覚の入力 ・バランスボールなどで体幹運動 ・まねっこ体操 など
眼球運動	・指標を用いて眼球運動 ・ブロックストリングス など
視覚認知	・点つなぎ ・タングラム ・図形ブロック ・ジオボード ・迷路 ・間違い探し など
協応運動	・お手玉タッチ（手、足、膝、棒を使って） ・ナンバータッチ（手元、前方） ・マスコピー ・風船バレー ・ピンポンキャッチ ・テーブルピンポン ・コップ積み など

#### ①体の運動

見る力の弱い児童は、体の使い方が分からなかったり、姿勢を保持できなかったりすることが多く見られる。そこでボディイメージや体幹などの筋力向上を図ることで、見る力の土台作りを行っている。また、多動性や衝動性、情緒的不安定さのある児童は、最初に体の運動を行うことで、その後のトレーニングに学習に落ち着いて取り組めることがある。

#### ②眼球運動

ビジョントレーニングの基礎となるものである。すべての児童に毎回実施している。

#### ③視覚認知

字形を正確に捉えることが難しい、図形の学習が苦手、板書を写すことに苦労する児童に多く取り入れている。指先を使った活動も多くあるので、不器用さや、書字の苦手さのある児童にも効果がある。

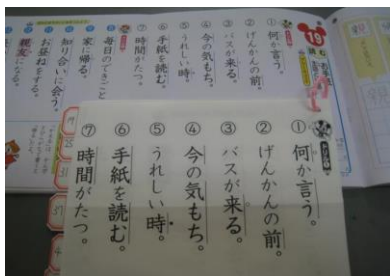
#### ④協応運動

体を動かすことができ、ゲーム感覚を取り入れやすいので、とても楽しんで取り組んでいる。見ることはできても、体を合わせて（調整して）動かすことが難しい児童に効果的である。

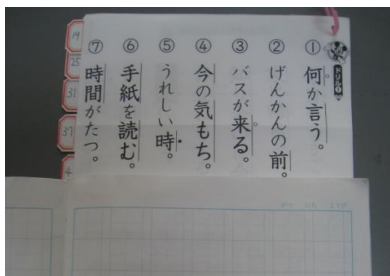
### ◇通常学級との連携

通級での指導は、週に1回1時間（45分）程度と非常に少ない。また、1時間すべてをビジョントレーニングに充てることはできない。そのため、通常学級での支援は、必要不可欠である。視覚機能のチェック結果をもとに、担任とその児童に合った支援を考えていくようにしている。

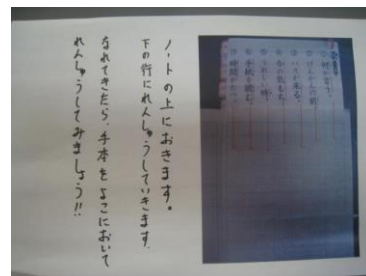
下記は、形を正確に捉えることに困難があり、字をマスの中にも書くことも難しい不器用さのある児童へ、学級で取り組んでいただいた支援である。家庭学習の漢字ノートを書くことが難しく、時間もかかり、本人も保護者も苦労をしていた。



漢字ドリルの宿題になる部分だけを拡大コピーしたミニドリルを作成。



重ねると漢字ノートの書く場所と一致する。



手順表を作成し、保護者の支援もお願いした。

通級指導でのビジョントレーニング、指先の運動への取組と合わせて、学級でも支援していただいた。現在この児童は、少し大きめのマス目を使っているが、ドリルを見て、漢字学習を行うことができるようになっており、家庭学習でも自分の力で取り組むことができている。

### ◇ビジョントレーニングの成果

下記は、「眼球運動」、「DEM」、「VMI」のチェックにおいて大きな困難を示した [A] [B] 2人の児童の変容である。  
実施期間：3か月、週1回、10～15分を7回程度

#### 【トレーニング前の児童の実態】

A	鏡文字や「ぬ」「ね」などの似た文字の書き間違い数字の「6」と「9」の読み間違いなどがあつた。
B	眼球運動に困難があり、読みのたどたどしさや読み飛ばし、板書を写すときの写し間違いなどの苦手さがあつた。

#### 【検査結果の変容】

	DEM (横読み速度)	
A	120秒以上	⇔ 53秒 (基準値: 46~76秒)
B	120秒以上	⇔ 79秒 (基準値: 36~60秒)

	VMI		
A		⇨	
B		⇨	

#### 【トレーニング後の児童の様子】

A	トレーニングを続けていくことで、書き間違いや読み間違いが減ってきており、書字の速度も上がってきている。
B	読みの流暢性は今後の課題としてまだ残ってはいるが、読み飛ばしもかなり少なくなってきた。板書の写し間違いが減ることで、以前にもまして学習に集中して取り組めるようになってきている。

### ◇指導を通して

通級指導教室に通ってくる児童は、さまざまな困難があり、個々のニーズにあった指導を必要としている。指導を行う前提として、視覚機能のチェックを行い、学習や運動の土台となる視覚機能を把握し、高めておくことは非常に有効であると感じている。また、通級は指導時間が少ないのが難点である。そのため、担任や家庭の協力は欠かせない。特に担任には、チェックの結果やトレーニングの現状を伝えながら、席の配置や読み書きの量の調整、課題への取り組み方の工夫など、通級と協力して取り組んでもらうことでより大きな効果が期待できる。

トレーニングを継続して行うことで、児童からは「教科書が読みやすくなった。」「野球が上手になったよ。」と効果を実感した感想が聞かれている。また、保護者からは、「音読の宿題がスムーズになってきた。」「自分から本がほしいと言ってきてびっくりした。」といったお話を伺うことができた。

ビジョントレーニングは、楽しみながら、手軽に取り組むことができ、継続して行うことで効果を実感することができる。通級指導だけの取組ではなく、通常学級でも取り組んでいってもらえるように広めていきたい。